

2026年度 年間教育計画

所属	日野工業高等学園	学科		コース		学年・年次	1
教 科	科 目	単位数	標準単位数	担当者			
国語	言語文化	2	2	油原あかね			
教科書名		出版社	学習書	学習期間			
新編 言語文化		東京書籍	新編 言語文化				
レポートの種類	一般レポート	選択レポート	51,52,53,54,55,56	面接時数	全実施時間数 55 時間		
	報告課題集				標準面接時数 2 時間		
定期試験	年間・学期 4 回	評定算出方法	試験成績90点・平常点10点を満点とした総合成績にもとづき、単位認定基準で定める得点区分に従って算出する。				
定期試験の評価割合	90%						
指導目標							
【知識技能】生涯にわたって社会生活に必要な国語の知識技能を身につけ活用する。 【思考力判断力表現力】物事を論理的に考える力、共感する力、豊かに想像する力を伸ばし、他者と積極的に関わり、自分の思いを広げたり深めたりすることができるようになる。 【主体的に学習に取り組む態度】言葉がもつ価値への認識を深め、他者や社会に対し、誠実に関わろうとする意欲、態度を養う。							

月	指導時数	単元・学習内容	レポート指導			試験範囲	備考
			回数	選択番号	提出日		
4	5	・古文の基礎	1	53	4月下旬	↑	前期 中間
5	3	・伊勢物語「芥川」					
6	6	・伊勢物語「芥川」 ・とんかつ	2	54	6月上旬		
7	7	・とんかつ	3	51	7月下旬	↑	前期 期末
8	4	・デューク				↑	後期 中間
9	6	・デューク	4	52	9月上旬		
10	7	・訓読の基本					
11	8	・故事「守株」	5	55	12月上旬	↑	後期 期末
12	4	・論語「学ぼうということ」					
1	2	・論語「学ぼうということ」					
2	2	・論語「学ぼうということ」	6	56	2月上旬		
3	0						

2026年度 年間教育計画

所属	日野工業高等学園	学科	機械科	コース		
教 科	科 目	単位数	標準単位数	担当者		
公民	公共	2	2	尾形 亮		
教科書名		出版社	学習書	学習期間		
公共		東京書籍	-	通年		
レポートの種類	一般レポート	選択レポート	①⑪⑬⑭⑮⑱	面接時数	全実施時 標準面接	
	報告課題集					
定期試験	年間・学期 4 回	評定算出方法	試験成績90点・平常点10点を満点とした総合成績にもとづき、点区分に従って算出する。			
定期試験の評価割合	90%					

指導目標					
人間と社会の在り方についての見方、考え方を働かせ、現代の諸課題について多面的・多角的に考察し、国際社会に主体的・平和的に生きる力を養う。 ①倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに、情報を効果的に調べまとめる技能を身に付ける。 ②現代の諸問題について、事実をもとに多面的・多角的に考察し公正に判断する力を養う。 ③社会に生きる大人としての自覚や、公共的な空間に生き日本の将来を担う公民としての自覚を深める。					

月	指導時数	単元・学習内容	レポート指導		
			回数	選択番号	提出日
4	4	第1部 「公共」のとびら 第1章 公共的な空間をつくる私たち—社会の中の自己			
5	2	第1部 「公共」のとびら 第3章 公共的な空間における基本的原理—私たちの民主的な社会			
6	7	第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第1章 民主政治と政治参加	1	1	6月下旬
7	10	第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第2章 法の働きと私たち	2	11	7月下旬
8	4	第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第2章 法の働きと私たち	3	13	8月下旬
9	8	第3章 経済社会で生きる私たち			
10	10	第3章 経済社会で生きる私たち			
11	7	第4章 私たちの職業生活	4	14	11月下旬
12	4	第4章 私たちの職業生活	5	15	12月下旬
1	4	第5章 国際社会のなかで生きる私たち	6	18	1月下旬
2	2	試験 答案返却			
3					
計	62				

学年・年次	1
補助	
時間数 62 時間	
時数 2 時間	
単位認定基準で定める得	

試験範囲	備考
↑	前期中間 6/10～6/12
↑	前期期末 8/24～8/26 答案返却 8/28
↑	後期中間 11/9～11/11
↑	後期期末 2/1～2/3 答案返却 2/5

2026年度 年間教育計画

所属	日野工業高等学園	学科	機械科・電気科	コース		学年・年次	1年
教 科	科 目	単位数	標準単位数	担当者			
数学	数学 I	4	3	滝澤 典優			
教科書名		出版社	学習書	学習期間			
数学 I Standard		東京書籍					
レポートの種類	一般レポート	選択レポート	01,02,03,04,05,06, 09,10,11,13,14,15	面接時数	全実施時間数	81 時間	
	報告課題集				標準面接時数	2 時間	
定期試験	年間・学期 4 回	評定算出方法	試験成績70点・平常点30点を満点とした総合成績にもとづき、単位認定基準で定める得点区分に従って算出する。				
定期試験の評価割合	7割						

指導目標							
算数及び数学の学習を通して学んだ基礎を固めること。また数学を用いて学習する専門学科の学習を進める上での基礎の積み上げを行う。 ①基礎的な計算力を養い、数学の諸問題に当たる際の技能を身につける。 ②文章題に対して何を問われているかを理解し、方程式や関数、三角比等を用いて系統的に解くことができる力を養う。 ③データとして集められた数値の扱い方、分析する力、分析した結果から問題解決につながる方策を考える力を養う。							

月	指導時数	単元・学習内容	レポート指導			試験範囲	備考
			回数	選択番号	提出日		
4	3	【1章 数と式】 1 節 式の計算 ①展開 ②因数分解	1	①	4月28日	前期 中間	前期中間試験 6/10予定
			2	②	5月8日		
5	3	2 節 実数 ①実数 ②根号を含む式の計算	3	③	5月26日		
			4	④	6月16日		
6	9	3 節 1 次不等式 ①不等式と1次不等式 ②不等式の応用	5	⑤	7月8日	前期 期末	前期期末試験 8/26予定
			6	⑥	7月21日		
7	8	【3章 2次関数】 1 節 2 次関数とそのグラフ ① 2 次関数 ② 2 次関数の最大・最小	7	⑨	8月26日		
			8	⑩	9月8日		
8	5	③ 2 次関数の決定 2 節 2 次方程式と 2 次不等式 ①2次関数のグラフと x 軸の共有点 ②2次関数のグラフと x 軸の共有点の個数 ③2次不等式	9	⑪	9月25日	後期 中間	後期中間試験 11/12予定
			10	⑬	10月13日		
9	11	【4章 図形と軽量】 1 節 鋭角の三角比 ①直角三角形と三角比 ②三角比の相互関係	11	⑭	11月7日		
			12	⑮	11月27日		
10	6	2 節 三角比の拡張 ①三角比と座標 ②三角比の性質				後期 期末	
11	7	3 節 三角形への応用 ①正弦定理・余弦定理・面積の公式 ④空間図形の計量					
12							

所属	日野工業高等学園	学科	機械科	コース		学年・年次	1年
教科	科目	単位数	標準単位数	担当者			
数学	数学 I	4	3	滝澤 典優			
月	指導時数	単元・学習内容	レポート指導			試験範囲	備考
			回数	選択番号	提出日		
1	7	【5章 データの分析】 1 節 データの分析 ①データの散らばり ②データの相関 2 節 データの分析の応用 ①データの分析を利用した問題解決 3 節 仮設検定の考え方				後 期 期 末 ↓	後 期 期 末 試 験 2027年 2/3予定
2	10	まとめ・復習 ※数学を用いて学習する2年次からの専門学科の学習を進める上での基礎の積み上げとしての計算の演習を中心として実施					
3	4	※時間があれば【2章 集合と論証】を3月に実施					
		以下余白					

《留意事項》

(継続用紙)

所属	日野工業高等学園	学科	機械科	コース		学年・年次	1年
教科	科目	単位数	標準単位数	担当者			
数学	数学 I	4	3	滝澤 典優			
月	指導時数	単元・学習内容	レポート指導			試験範囲	備考
			回数	選択番号	提出日		
1	5	【5章 データの分析】 1 節 データの分析 ①データの散らばり ②データの相関 2 節 データの分析の応用 ①データの分析を利用した問題解決 3 節 仮設検定の考え方				後 期 期 末 ↓	後期期末試験 2026年 2/5予定
2	8	まとめ・復習 ※数学を用いて学習する2年次からの専門学科の学習を進める上での基					
3	6	礎の積み上げとしての計算の演習を中心として実施 ※時間があれば【2章 集合と論証】を3月に実施					
		以下余白					

《留意事項》

2026年度 年間教育計画

所属	日野工業高等学園	学科	機械科	コース	学年・年次		1年
教 科	科 目	単位数	標準単位数		担当者		
英語	英語コミュニケーションⅠ	3	3		秋山 雄希		
教科書名		出版社	学習書		学習期間		
All Aboard! English communicationⅠ Revised		東京書籍	英語		通年		
レポートの種類	一般レポート	選択レポート	⑪～⑮、⑳～㉔		面接時数	全実施時間数 84 時間	
	報告課題集					標準面接時数 12 時間	
定期試験	年間・学期 4 回	評定算出方法	定期試験割合70%、小テスト15%、会話活動15%で算出。得点区分は規定に定められたものとする。				
定期試験の評価割合	70%						
指導目標							
①必要な情報を読み取ったり、聞いたりするために必要な英語の知識を身に付けることができる。 ②基本的な語句や文を用いて、情報や考えを話して伝え合うことができる。 ③①、②の活動に対し、主体的に意欲を持って取り組むことができる。							

月	指導時数	単元・学習内容	レポート指導			試験範囲	備考
			回数	選択番号	提出日		
4	7	Warm up Pre-Lesson Communication 1 英文のしくみ1				前期中間試験 6/10～12	
5	4	Lesson 1 Breakfast Around the World	1 2	⑪ ㉑	5/31		
6	13	Lesson 1 Breakfast Around the World Lesson 2 Australia's Cute Quokkas	3 4	⑫ ㉒	6/30	前期期末試験 8/24～26	
7	11	Lesson 2 Australia's Cute Quokkas Lesson 3 Life with Spade					
8	6	Lesson 3 Life with Spade	5 6	⑬ ㉓	8/31		
9	10	Lesson 4 A Miracle Mirror					
10	11	Lesson 4 A Miracle Mirror Lesson 5 A Dream Engine				後期中間試験 11/9～11/11	
11	11	Lesson 4 A Miracle Mirror Lesson 5 A Dream Engine	7 8	⑭ ㉔	11/30		
12	6	Lesson 5 A Dream Engine まとめ・TOEIC演習	9	⑮	12/20	後期期末試験 2/1～2/3	
1	3	まとめ・TOEIC演習					
2	2	まとめ・TOEIC演習					

《留意事項》
適宜単語などの小テストを行う。
9月より、オンライン英会話「レアジョブ」を実施する。
授業と並行して、TOEIC Bridge 受験対策を行う。

2026年度 年間教育計画

所属	日野工業高等学園	学科	機械科・電気科	コース	本科	学年・年次	1
教 科	科 目	単位数	標準単位数	担当者			
理科	科学と人間生活	2	2	川喜田 健人			
教科書名		出版社	学習書	学習期間			
科学と人間生活		第一学習社	—	通年			
レポートの種類	一般レポート	選択レポート	①②③④⑤⑥	面接時数	全実施時間数 41 時間		
	報告課題集						
定期試験	年間・学期 4 回	評定算出方法	試験成績90点・平常点10点を満点とした総合成績にもとづき、単位認定基準で定める得点区分に従って算出する。				
定期試験の評価割合	90%						
指導目標							
理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行い、科学的に探求するために必要な資質・能力を育成する。 ①科学的探究に必要な基本的な知識を身につける。 ②実験、観察などを行い、科学的に探究する技能を身につける。 ③科学的に筋道立てた思考を身につける。④科学的課題に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。							
月	指導時数	単元・学習内容	レポート指導			試験範囲	備考
			回数	選択番号	提出日		
4	4	プラスチックの特徴 プラスチックの分類と用途 さまざまなプラスチック	1	①	4月下旬		
5	3	金属と人間生活 金属とその精錬					
6	4+1	金属のさびと合金 資源の再利用	2	②	6月上旬		前期中間 6/10～6/12
			3	③	6月下旬		
7	6	身近な繊維 繊維の構造と染色 天然繊維					
8	3+2	化学繊維	4	④	8月下旬		前期期末 8/24～8/26
9	2	食品中のおもな栄養素 炭水化物 タンパク質					
10	4	脂質 その他の栄養素	5	⑤	10月下旬		
11	4+1	タンパク質のはたらきと構造					後期中間 11/24～11/26
12	3	遺伝子とDNA	6	⑥	12月下旬		
1	2	タンパク質の合成					
2	0+2	まとめ					後期期末 2/2～2/4
3	0						
計	41						

2026年度 年間教育計画

所属	日野工業高等学園	学科	機械科・電気科	コース		学年・年次	1年
教 科	科 目	単位数	標準単位数	担当者			
保健体育	保健	2	2	武笠 伸恭			
教科書名		出版社	学習書	学習期間			
現代高等保健体育		大修館	現代高等保健体育	通年			
レポートの種類	一般レポート	選択レポート	①・②・③	面接時数	全実施時間数 27 時間		
	報告課題集				標準面接時数 1 時間		
定期試験	年間・学期 2 回	評定算出方法	定期試験の点数にて、単位認定基準で定める得点区分に従って算出する				
定期試験の評価割合	100%						
指導目標							
①健康について考えることができる。 ②健康について考え、規則正しい生活行動ができる。 ③他者の変化に気づき声掛けすることができる。							

月	指導時数	単元・学習内容	レポート指導			試験範囲	備考
			回数	選択番号	提出日		
4	1	9.喫煙と健康 10.飲酒と健康※1				↓	
5	1	10.飲酒と健康※2 11.薬物乱用と健康					
6	3	復習＆テスト＆返却 12.精神疾患の特徴	1	③	6月中旬		
7	4	13.精神疾患の予防 14.精神疾患からの回復 15.現代の感染症					
8	1	16.感染症の予防	2	②	9月下旬		
9	4	17.性感染症・エイズとその予防					
10	4	18.健康に関する意思決定・行動選択 19.健康に関する健康づくり					
11	3	6.運動と健康・7.食事と健康・8.休養・睡眠と健康 復習＆テスト＆返却 1.健康の考え方と成り立ち					
12	2	2.私たちの健康のすがた・3.生活習慣病の予防と回復 4.がんの原因と予防					
1	2	5.がんの治療と回復 復習					
2	2	テスト＆返却	3	①	2月中旬		

2026年度 年間教育計画

所属	日野工業高等学園	学科	機械科・電気科	コース		学年・年次	1年
教科	科目	単位数	標準単位数	担当者			
保健体育	体育	3	2	武笠 伸恭			
教科書名		出版社	学習書	学習期間			
現代高等保健体育		大修館	現代高等保健体育	通年			
レポートの種類	一般レポート	選択レポート	①・②・③	面接時数	全実施時間数	32時間	
	報告課題集				標準面接時数	15時間	
定期試験	年間・学期 1 回	評定算出方法	実技テスト60%とペーパーテスト40%				
定期試験の評価割合	40%						
指導目標							
①積極的に体を動かしたりすることができる。 ②自分の動き、または他者の動きを客観的に評価することができる。 ③健康・安全を考えて行動している。							

月	指導時数	単元・学習内容	レポート指導			試験範囲	備考
			回数	選択番号	提出日		
4	2	体力測定					
5	0						
6	6	体づくり運動	1	①	6月下旬		
7	2	体力測定 バレーボール					
8	0						
9	6	体づくり運動	2	②	9月下旬		
10	6	サッカー 体力測定					
11	4	サッカー バスケットボール					
12	2	バスケットボール					
1	2	バドミントン 体力測定	3	③	1月下旬		
2	2	テスト&返却				レポート と教科書	

2026年度 年間教育計画

所属	日野工業高等学園	学科	機械科・電気科	コース	本科	学年・年次	1年
教 科	科 目	単位数	標準単位数	担当者			
理科	物理基礎	2	2	長谷川 義一			
教科書名		出版社	学習書	学習期間			
新物理基礎		第一学習社	—	通年			
レポートの種類	一般レポート	選択レポート	①②③⑥⑧⑪	面接時数	全実施時間数 39 時間		
	報告課題集				標準面接時数 2 時間		
定期試験	年間・学期 6 回	評定算出方法	試験成績90点・平常点10点を満点とした総合成績にもとづき、単位認定基準で定める得点区分に従って算出する。				
定期試験の評価割合	90%						
指導目標							
理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行い、科学的に探求するために必要な資質・能力を育成する。 ①科学的探究に必要な基本的な知識を身につける。 ②実験、観察などを行い、科学的に探究する技能を身につける。 ③科学的に筋道立てた思考を身につける。④科学的課題に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。							

月	指導時数	単元・学習内容	レポート指導			試験範囲	備考
			回数	選択番号	提出日		
4	4	導入 物体の運動					
5	3	加速度 等加速度直線運動	1	①	5月上旬		
			2	②	5月下旬		
6	5	落下運動 様々な力	3	③	6月下旬		前期中間 6/10～6/12
7	6	運動の3法則 摩擦力、圧力、浮力	4	⑥	7月下旬		
8	4	位置エネルギー、運動エネルギー 力学的エネルギー	5	⑧	8月上旬		前期期末 8/24～8/26
9	2	熱と温度 エネルギーの変換と保存	6	⑪	9月上旬		
10	4	波の表し方と波の要素 波の重ね合わせと反射					
11	5	波の干渉、回折 音波					後期中間 11/9～11/11
12	3	静電気と電流					
1	2	電流と磁場 エネルギーとその利用					
2	1	まとめ					後期期末 2/1～2/3
3	0						
計	39						

2026年度 年間教育計画

所属	日野工業高等学園	学科	機械科・電気科	コース			学年・年次	2年
教 科	科 目	単位数	標準単位数		担当者			
保健体育	保健	2	2		武笠 伸恭			
教科書名		出版社	学習書		学習期間			
現代高等保健体育		大修館	現代高等保健体育		通年			
レポートの種類	一般レポート	選択レポート	⑤・⑥・⑦		面接時数	全実施時間数 14 時間		
	報告課題集					標準面接時数 1 時間		
定期試験	年間・学期 2 回	評定算出方法	定期試験の点数にて、単位認定基準で定める得点区分に従って算出する					
定期試験の評価割合	100%							
指導目標								
①身の回りの危険や他者との違いがわかることだできる。 ②身の危険がおきた際に対応することができる。 ③他者に対して自分の持っている知識・行動を積極的に活用できる。								

月	指導時数	単元・学習内容	レポート指導			試験範囲	備考
			回数	選択番号	提出日		
4	2	1.事故の現状と発生要因 2.安全な社会の形成				↓	
5	1	3.交通における安全 4.応急手当の意義とその基本					
6	3	復習 & テスト & 返却				↓	
7	1	レポート実施	1	⑤	7月下旬		
8	1	5.日常的な応急手当 6.心肺蘇生法					
9	1	1.ライフステージと健康 復習 & テスト & 返却	2	⑥	9月下旬		
10	0					↓	
11	1	2.思春期と健康 3.性意識と性行動の選択					
12	1	4.妊娠・出産と健康 5.避妊法と人工妊娠中絶 6結婚生活と健康					
1	1	復習 レポート実施	3	⑦	1月下旬		
2	2	テスト & 返却					

2026年度 年間教育計画

所属	日野工業高等学園	学科	機械科・電気科	コース		学年・年次	2
教 科	科 目	単位数	標準単位数	担当者			
地歴	歴史総合	2	2	尾形 亮輔			
教科書名		出版社	学習書	学習期間			
高等学校 新歴史総合 過去との対話、つなぐ未来		第一学習者	最新日本史図表 新版	通年			
レポートの種類	一般レポート 報告課題集	選択レポート	⑨⑩⑪⑫⑬⑭	面接時数	全実施時間数 40 時間 標準面接時数 2 時間		
定期試験	年間・学期 2 回	評定算出方法	試験成績90点・平常点10点を満点とした総合成績にもとづき、単位認定基準で定める得点区分に従って算出する。				
定期試験の評価割合	90%						
指導目標							
社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、広い視野に立ち、国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。 ①近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、理解するとともに、情報を効果的に調べまとめる技能を身に付ける。 ②近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握する力を養う。 ③近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、課題を主体的に宇井級、解決しようとする力と多面的・多角的な考察を通じて自国民としての自覚などを深める。							
月	指導時数	単元・学習内容	レポート指導			試験範囲	備考
			回数	選択番号	提出日		
4	6	歴史を学習する上での導入と背景、略歴 第一次世界大戦と大衆社会(1)				↑	前期中間 6/10～6/12
5	4	歴史を学習する上での導入と背景、略歴 第一次世界大戦と大衆社会(1)					
6	7	第一次世界大戦と大衆社会(1) 第一次世界大戦と大衆社会(2)	1	9	6月下旬		前期期末 8/24～8/26 答案返却 8/28
7	4	第一次世界大戦と大衆社会(1) 第一次世界大戦と大衆社会(2)	2	10	7月下旬		
8	5	経済危機と第二次世界大戦(1) 経済危機と第二次世界大戦(2)					
9	2	経済危機と第二次世界大戦(1) 経済危機と第二次世界大戦(2)					
10	0	経済危機と第二次世界大戦(2)	3	11	10月下旬	↑	後期期末 2/1～2/3 答案返却 2/5
11	3	経済危機と第二次世界大戦(2)	4	12	11月下旬		
12	4	第二次世界大戦後の世界と日本(1) 第二次世界大戦後の世界と日本(2)	5	13	12月下旬		
1	3	第二次世界大戦後の世界と日本(1) 第二次世界大戦後の世界と日本(2)	6	14	1月下旬		
2	2	定期考査、答案返却					
3							
計	40						

2026年度 年間教育計画

所属	日野工業高等学園	学科	機械科・電気科	コース		学年・年次	2年
教科	科目	単位数	標準単位数	担当者			
英語	英語コミュニケーションⅡ	3	3	秋山 雄希			
教科書名		出版社	学習書	学習期間			
All Aboard! English communication Ⅱ		東京書籍	英語	通年			
レポートの種類	一般レポート	選択レポート	①～⑤、⑬～⑯	面接時数	全実施時間数 79 時間 標準面接時数 12 時間		
	報告課題集						
定期試験	年間・学期 3 回	評定算出方法	定期試験割合70%、小テスト15%、会話活動15%で算出。得点区分は規定に定められたものとする。				
定期試験の評価割合	70%						
指導目標							
①必要な情報を読み取ったり、聞いたりするために必要な英語の知識を身に付けることができる。 ②基本的な語句や文を用いて、情報や考えを話して伝え合うことができる。 ③①、②の活動に対し、主体的に意欲を持って取り組むことができる。							

月	指導時数	単元・学習内容	レポート指導			試験範囲	備考
			回数	選択番号	提出日		
4	11	Pre-Lesson My Plans for This Year Lesson 1 A Colorful Island				前期中間試験 6/10～12	
5	8	Lesson 1 A Colorful Island Lesson 2 With the Beatles	①、⑬		5/31		
6	15	Lesson 2 With the Beatles	②、⑭		6/30	前期期末試験 8/24～26	
7	8	Lesson 3 Wild Men	③、⑮		7/31		
8	7	Lesson 3 Wild Men Lesson 4 Little Hero					
9	6	Lesson 4 Little Hero				後期期末試験 2/1～3	
10	0						
11	5	Lesson 4 Little Hero	④、⑯		11/30		
12	10	Lesson 5 Special Makeup in Kabuki					
1	7	Lesson 5 Special Makeup in Kabuki	⑤		1/31		
2	2	Lesson 5 Special Makeup in Kabuki					
	79						

《留意事項》 適宜単語などの小テストを行う。 オンライン英会話「レアジョブ」を実施する。 授業と並行して、TOEIC Bridge 受験対策を行う。

2026年度 年間教育計画

所属	日野工業高等学園	学科	全	コース	全	学年・年次	3学年
教 科	科 目	単位数	標準単位数	担当者			
英語科	英語コミュニケーションⅡ	1	1	佐藤千賀子			
教科書名		出版社	学習書	学習期間			
All Aboard II		東京書籍	-	-			
レポートの種類	一般レポート	選択レポート	19, 20, 21	面接時数	全実施時間数	時間	
	報告課題集				標準面接時数	時間	
定期試験	年間・学期 2 回	評定算出方法	試験成績60点・平常点40点を満点とした総合成績にもとづき、単位認定基準で定める得点区分に従って算出する。				
定期試験の評価割合	60%						
指導目標							
外国人とのコミュニケーションの場面で自分の意見を表現する力を養い、かつコミュニケーションする外国人の文化的背景や世界の状況を学ぶ。 ①知識・技能： 実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な英語単語・文法を習得する。 ②思考力、判断力、表現力等： 今年度計画されている海外修学旅行にて想定し得る場面にて、適切な言葉や表現を使って会話を成立させることを考える力を養う。 ③学びに向かう力、人間性等： 海外での生活に対して、同級生と協力して、積極的に英語を前向きに学ぶように仕向ける。							
月	指導時数	単元・学習内容	レポート指導			試験範囲	備考
			回数	選択番号	提出日		
4～6	10	Lesson 6 Seeds for Future Generations 1) 文法事項： 動詞の目的語になるif節 2) 地元で有名な場所やものについて紹介	1	19	5月31日		
7～9	10	Lesson 7 Over the Wall 1) 文法事項： 関係副詞 where, whenを使った文章を学ぶ 2) 世界の人々と交流する方法について考える	2	20	9月30日		
10～12	10	Lesson 8 Inspiration from Nature 1) 文法事項： 知覚動詞 2) 英語で自分の専門分野について説明する	3	21	12月17日		

2025年度 年間教育計画

所属	日野工業高等学園	学科	機械科・電気科	コース		学年・年次	3年
教科	科目	単位数	標準単位数	担当者			
保健体育	体育	2	2	高橋 在人			
教科書名		出版社	学習書	学習期間			
現代高等保健体育		大修館	現代高等保健体育	通年			
レポートの種類	一般レポート	選択レポート	⑥⑦	面接時数	全実施時間数 24時間		
	報告課題集				標準面接時数 1時間		
定期試験	年間 学期 1 回	評定算出方法	試験成績50%・実技試験40%・平常点10%とした総合成績にもとづき算出する。				
定期試験の評価割合	50%						
指導目標							
①生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続できるよう、体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付ける。 ②競争や協働の経験を通して、ルールを順守する、チームで協力するなどの重要性を理解し、自己の行動に落とし込むことができる。 ③スポーツを通じて、ルールを順守する、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画するなどの意欲を身につける。							

月	指導時数	単元・学習内容	レポート指導			試験範囲	備考
			回数	選択 番号	提出日		
4	4	体づくり運動					
7	4	体づくり運動					
8	2	テスト & 返却				レポート 教科書	
9	4	バスケットボール					
10	2	バスケットボール					
11	4	ラグビー					
12	4	ラグビー	1,2	⑥⑦	12月下旬		

2026年度 年間教育計画

所属	日野工業高等学園	学科	機械科・電気科	コース		学年・年次	3
教 科	科 目	単位数	標準単位数	担当者			
地歴	地理総合	2	2	尾形 亮輔			
教科書名		出版社	学習書	学習期間			
高等学校 新地理総合		帝国	-	通年			
レポートの種類	一般レポート	選択レポート	①⑬⑭⑯⑰⑱	面接時数	全実施時間数	24 時間	
	報告課題集				標準面接時数	2 時間	
定期試験	年間・学期 1 回	評定算出方法	試験成績70点・課題解決能力30点を満点とした総合成績にもとづき、単位認定基準で定める得点区分に従って算出する。				
定期試験の評価割合	70%						

指導目標							
社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解し、地理に関する情報を調べまとめる技能を身に付ける。 (2)地理に関わる事象の意味や意義などに着目して、概念などを活用して多面的に考察したり、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3)地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。							

月	指導時数	単元・学習内容	レポート指導			試験範囲	備考
			回数	選択番号	提出日		
4	2	第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図上の位置と地理情報システム 1節 地球上の位置と時差				↑	前期期末 8/24～8/26 答案返却 8/28
5	2	第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図上の位置と地理情報システム 1節 地球上の位置と時差					
6	0						
7	2	第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図上の位置と地理情報システム 1節 地球上の位置と時差	1	1	7月下旬		
8	4	第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図上の位置と地理情報システム 1節 地球上の位置と時差	2	13	8月下旬		
9	4	第2部 国際理解と国際協力 第2章 地球的課題と国際協力 1節 2節 3節 4節 5節 6節	3	14	9月下旬	↑	後期期末 12/17～12/18 答案返却 12/22
10	2	第2部 国際理解と国際協力 第2章 地球的課題と国際協力 1節 2節 3節 4節 5節 6節	4	16	10月下旬		
11	4	第2部 国際理解と国際協力 第2章 地球的課題と国際協力 1節 2節 3節 4節 5節 6節	5	17	11月下旬		
12	4	第2部 国際理解と国際協力 第2章 地球的課題と国際協力 1節 2節 3節 4節 5節 6節	6	18	12月上旬		
1							
2							
3							
計	24						

2026年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日野工業高等学園						
学 科	機械科・電気科		コ ー ス			学年・年次	1年
科目名	電気工学概論	単位数	2	教科書	精選電気回路	出版社	実教出版
月	指 導 内 容				指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目 ・ 内 容			70 h		
4	1～19 20～25	第1章 電気回路の要素 第2章 直流回路			4		
5	26～43	第2章 直流回路			3		
6	44～55	第2章 直流回路			8	前期中間 6/10～12	
7	56～81 82～87	第3章 静電気 第4章 電流と磁気			9		
8	88～103	第4章 電流と磁気			5	前期期末 8/24～26	
9	104～127 128～135	第4章 電流と磁気 第5章 交流回路			8		
10	136～171	第5章 交流回路			10		
11	172～183 184～199	第5章 交流回路 第6章 電気計測			8	後期中間 11/9 ～11	
12	200～207	第6章 電気計測			5		
1	208～223	第7章 非正弦波交流と過渡現象			5		
2		後期期末試験対応			5	後期期末 2/1～3	
3							

《留意事項》

令和8年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日野工業高等学園							
学 科	機械科		コース			学年・年次	1	
科目名	製図	単位数	2	教科書	機械製図	出版社	旺文社	
月	指 導 内 容					指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容				74		
4	10～20	第1章 製図一般 第1節 図面及び製図の意義 第2節 製図規格 第3節 図面の種類				6		
5	21～28	第4節 製図用機器の種類と特徴				2	課題① 標題	
6	32～56	第2章 基礎画法 第1節 平面画法 第2節 立体画法				12	フタ	
7	64～73	第3章 機械製図 第1節 図面の大きさ及び様式 第2節 尺度 第3節 線				12	課題② 中間軸	
8	74～147	第4節 文字と文章 第5節 投影図 第6節 図形の表し方 第7節 寸法記入方法				2		
9	152～170	第4章 製図に必要な関連規格 第1節 寸法公差及びはめあいの方式				10		
10	171～175	第2節 長さ寸法及び角度寸法の許容限界記入方法				12		
11	176～211	第3節 幾何公差 第4節 表面性状の図示方法				8	課題③ ブーリー	
12	212～224	第5節 部品エッジの図示方法 第6節 材料記号				6		職場体験 実習
1	225～236	第7節 溶接記号				4	課題④ 三角法ブ ロック	職場体験 実習
2		特別時間割						
3		特別時間割						

《留意事項》

2026年度 学習指導計画（連携科目）

所 属	日野工業高等学園							
学 科	機械科・電気科		コース			学年・年次	1学年	
科目名	測定法	単位数	1	教科書	機械測定法	出版社	厚生労働省認定教材	
月	指 導 内 容					指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容				35		
4	12～15 16～22 23～33	第1章 測定一般 ・第1節 測定の基礎 ・第2節 公差と精度 ・第3節 測定誤差				2		
5	34～44 44～51 52～74 75～89	・第4節 日本産業規格 ・第5節 トレーサビリティ 第2章 長さの測定 ・第1節 長さの単位と標準 ・第2節 線度器による測定 ・第3節 線度器による測定 ・第4節 ねじによる測定 ・第5節 端度器による測定 ・第6節 固定寸法ゲージによる測定				2		
6	90～103 104～109 110～116	・第7節 比較測定器とその測定 ・第8節 光波干渉計及びレーザー測長機 ・第9節 デジタルスケール				3	前期中間 6/10～12	
7	117～118 124～132 133～148 152～177 178～189	・第10節 万能測長機 第3章 角度の測定 ・第1節 角度の単位と基準 ・第2節 単一角度基準 ・第3節 各種測定器による角度の測定 ・第4節 テーパ角の測定 第4章 面の測定 ・第1節 表面性状の測定 ・第2節 直角度の測定 ・第3節 平面度の測定 ・第4節 具円度の測定 ・第5節 同軸度の測定・第6節 平行度の測定				5		
8	190～196 202～215 216～223	第5章 座標による測定 ・第1節 座標による測定の概要 ・第2節 二次元測定機 ・第3節 三次元測定機				3	前期期末 8/24～26	
9	228～229 230～231 232～234	第6章 ねじの測定 ・第1節 ねじの種類 ・第2節 ねじの基準山形と基準寸法 ・第3節 ねじのはめ合い区分と等級及び寸法公差				5		
10	235～236 237～245 250～254	・第4節 有効径当量 ・第5節 おねじの測定方法 ・第6節 ねじゲージ 第7章 歯車の測定 ・第1節 歯車の種類 ・第2節 インボリュート平歯車の基本寸法				4		
11	255～257 258 259～260 261～262 263～264	・第3節 またぎ歯厚の測定 ・第4節 歯厚ノギスによる歯形の測定 ・第5節 平歯車の精度と歯形寸法の許容誤差 ・第6節 ビツナ誤差の測定 ・第7節 歯形誤差の測定 ・第8節 歯車のかみ合い試験 ・第9節 歯形ゲージ				5	後期中間 11/9～11	
12	268 269 270	第8章 測定器の管理 ・第1節 測定器の管理の目的 ・第2節 測定器の保管 ・第3節 測定器の取り扱いと安全				2		
1	271～276 277 278	・第4節 測定器の精度保持 ・第5節 測定器の管理規定 第8章のまとめ				2		
2						2	後期期末 2/1～3	
3								

《留意事項》

2026年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日野工業高等学園						
学 科	機械科・電気科		コ ー ス			学年・年次	1年
科目名	安全衛生(工業管理技術)	単位数	1	教科書	安全衛生	出版社	一般社団法人 雇用問題研究会
月	指 導 内 容				指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容			36 h		
4	Pポイント 12～17	新卒 技能職安全衛生教育 第1章 安全衛生の基本			2		
5	20～28	第2章 労働災害の現状			2		
6	30～40 42～52	第3章 安全管理体制の確立 第4章 安全衛生管理の進め方			5	前期中間 6月10日 ～ 6月12日	
7	61～67 70～76	第5章 機械設備等・かんきょうの安全化 第6章 安全衛生活動 KYT 実習			4		
8	80～85	第7章 作業計画と安全衛生の取り組み			4	前期期末 8月24日 ～ 8月26日	
9	88 94～216	第8章 安全衛生教育と就業制限 第9章 安全基準			5		
10	220～229 232～237	第10章 手工具の取扱いに関する安全管理 第11章 危険物の管理			4		
11	240～245 248～262	第12章 保護具 第13章 安全心理と人間工学			5	後期中間 11月 9日 ～ 11月11日	
12	266～273	第14章 職場と健康_第1～3節			2		
1	273～275	第14章 職場と健康_第4節			1		
2					2	後期期末 2月 1日 ～ 2月 3日	
3					0		

《留意事項》

2026年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日野工業高等学園							
学 科	機械科・電気科		コース			学年・年次	1年生	
科目名	工業情報数理	単位数	2	教科書	精選工業情報数理 パソコン利用技術検定試験2級	出版社	実教出版 全国工業高等学校校長協会	
月	指 導 内 容					指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容				76 h		
4		表計算ソフトウェア Excel 学習				4	前期 中間試験	
		OS (Operating System)						
		1. OSの応用操作						
		2. ファイル管理						
5		表計算ソフトウェア Excel 学習				2		
		パソコンのハードウェア・ソフトウェア						
6		表計算ソフトウェア Excel 学習				8		
		パソコンの周辺機器						
7		表計算ソフトウェア Excel 学習				10		
		マルチメディア						
8		表計算ソフトウェア Excel 学習				5	前期 期末試験	
		ネットワーク						
9		表計算ソフトウェア Excel 学習				8		
		情報管理・セキュリティ						
10		表計算ソフトウェア Excel 学習				10		
		マクロ						
11		表計算ソフトウェア Excel 学習				10	後期 中間試験	
		パソコン検定2級 試験対応						
12		表計算ソフトウェア Excel 学習				4		パソコン検定 2級受験
		パソコン検定2級 試験対応						
1		プログラミング				4		職場体験
2		プログラミング				7	後期 期末試験	
3		プログラミング				4		

《留意事項》

2026年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日野工業高等学園						
学 科	機械科・電気科		コース	機械加工科・塑性加工科		学年・年次	2年生
科目名	工業情報数理	単位数	2	教科書	精選工業情報数理/パソコン利用 技術検定試験2級	出版社	実教出版/全国工業高 等学校
月	指 導 内 容				指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容			80 h		
4	～p29	筆記 パソコン利用技術検定試験テキストを使用する。 オペレーティングシステムを履修する。 実技 EXCEL エクセルのオリジナルテキスト基礎1,2を使用して学習する。			12		
5	～p48	筆記 パソコン利用技術検定試験テキストを使用する。 ハードウェア・ソフトウェア、パソコン周辺機器を履修する。 実技 EXCEL エクセルのオリジナルテキスト基礎3を使用して学習する。			7		
6	～p80 p98 ～p101	筆記 パソコン利用技術検定試験テキストを使用する。 マルチメディア、ネットワークを履修する。 実技 EXCEL 練習問題 1 ・ 2 を実施			11		
7	～p96 ～p105	筆記 パソコン利用技術検定試験テキストを使用する。 情報管理を履修する。 実技 EXCEL 練習問題 3 ・ 4 を実施			12		
8	～p109	筆記 パソコン利用技術検定試験テキストを使用する。 過去問実施 実技 EXCEL 練習問題 5 ・ 6 を実施			3 + 2	期末 試験	夏休み
9	～p113	筆記 パソコン利用技術検定試験テキストを使用する。 過去問実施 実技 EXCEL 練習問題 7 ・ 8 を実施			10		工場実習
10					0		工場実習
11	～p117	筆記 パソコン利用技術検定試験テキストを使用する。 過去問実施 実技 EXCEL 練習問題 9 ・ 1 0 を実施			3		工場実習
12		筆記 パソコン利用技術検定試験テキストを使用する。 過去問実施 実技 EXCEL 過去問実施			10	検定 試験	冬休み
1		フローチャート・プログラミング学習(じゃんけんゲーム制作)			10		冬休み
2							
3							

《留意事項》

2026年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日野工業高等学園						
学 科	機械科		コース	機械加工科・自動車製造科		学年・年次	2年
科目名	機械工作法	単位数		教科書	機械工作法	出版社	一般社団法人 雇用問題研究会
月	指 導 内 容				指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容			70 h		
4	p11 ～ p32	第1章 機械工作法の概要 第1節 総説 1.1 機械工作法とその目的 1.5 工具			9		始業式・入学式 (4/1) GW (4/29～5/5)
5	p33 ～ p43	第2章 切削加工法 第1節 切削理論			9		GW (4/29～5/5) クラブ合宿 (5/12～5/15) 総合防災訓練 (5/27 14:50～ 15:20)
6	p44 ～ p90	1.10 切削工具 第2節 旋盤作業			13	前期中間 6/10～ 6/12	
7	p91 ～ p133	第3節 フライス盤作業 第4節 ボール盤作業			9		キャンプ実習 (7/8～7/10)
8	p134 ～p 139 p140 ～p 144	第5節 中ぐり盤作業 第6節 形削り盤作業、平削り盤作業			5	前期期末 8/24～8/26 一斉答案返却 8/28	夏季連休 (8/3～8/18)
9	p140 ～ p144	第6節 形削り盤作業、平削り盤作業 【機能別実習】（9/28～11/20）			9		ものづくり体験③ (9/23) 工場実習 (9/28～ 11/20)
10	—	【機能別実習】（9/28～11/20）			0		工場実習 (9/28～ 11/20)
11	p147 ～ p162	【機能別実習】（9/28～11/20） 第7節 NC（数値制御）工作機械			2		工場実習 (9/28～ 11/20)
12	p147 ～ p 166 p167 ～ p194	第7節 NC（数値制御）工作機械 第8節 その他の切削加工作業			6		冬季連休 (12/25～ 1/5) 修学旅行報告会(AM) 奉仕活動(PM) (12/23)
1	p195 ～ p226	第3章 研削加工法 第1節 研削の基本 第2節 研削盤作業			6		冬季連休 (12/25～ 1/5)
2	—	【仮配属実習】（2/22～3/19）			2	後期期末 2/1～2/3 一斉答案返却 2/5	特別時間割 仮配属実習 (2/22～3/19)
3	—	【仮配属実習】（2/22～3/19）			0		仮配属実習 (2/22～ 特別時間割

《留意事項》

2026年度 学習指導計画(連携科目)

所 属		日野工業高等学園						
学 科	機械科		コース	機械加工科		学年・年次	2年	
科目名	機械工学概論	単位数		教科書	機械工学概論	出版社	一般社団法人 雇用問題研究会	
月	指 導 内 容					指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容				39 h		
4	p8 ～ p11	第1章	機械要素 第1節	ねじ		4		始業式・入学式 (4/1) GW (4/29～5/5)
5	p13 ～ p27		第2節	締結部品		2		GW (4/29～5/5) クラブ合宿 (5/12～5/15) 総合防災訓練 (5/27 14:50～ 15:20) 体育祭 (5/29)
6	p13 ～ p27		第2節	締結部品		4	前期中間 6/10～ 6/12	
7	p28 ～ p45		第3節	軸と軸受		4		キャンプ実習 (7/8～7/10)
8	p46 ～ p52		第4節	緩衝部品		3	前期期末 8/24～8/26 一斉答案返却 8/28	夏季連休 (8/3～8/18)
9	p53 ～ p64 p65 ～ p69		第5節	歯車		4		ものづくり体験 (9/23) 工場実習 (9/28～11/20)
10			【機能別実習】(9/28～11/20)			0		工場実習 (9/28～ 11/20)
11	p70 ～ p76		【機能別実習】(9/28～11/20) 第7節 管(パイプ)と弁(バルブ)			2		工場実習 (9/28～11/20)
12	p78 ～ p87 p88 ～ p110	第2章	機構と運動 第1節 第2節 第3節 第4節 第5節	機械と機構 歯車伝動機構 油空圧機構 リンク装置 カム機構		6		冬季連休 (12/25～ 1/5) 修学旅行報告会(AM) 奉仕活動(PM) (12/23)
1	p140 ～ p166	第4章	機械一般 第1節 第2節 第3節 第4節 第5節	ポンプと液体伝動装置 空気機械 物上げ機械 運搬機械 自動化機構		8		冬季連休 (12/25～ 1/5)
2	—	【仮配属実習】(2/22～3/19)				2	後期期末 2/1～2/3 一斉答案返却 2/5	特別時間割 仮配属実習 (2/22～3/19)
3	—	【仮配属実習】(2/22～3/19)				0		仮配属実習 (2/19～3/19) 特別時間割
《留意事項》								

令和8年度 学習指導計画(連携科目等)

所 属	日野工業高等学園					
学 科	機械科	コース	自動車製造科		学年・年次	2
科目名	自動車組立法	単位数		教科書	(参)自動車技術ハンドブック4	出版社 自動車技術会
月	指 導 内 容			指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容		83 h		
4	- - - - -	自己紹介、授業目的説明 等 日野自動車の理念 学園の方針 安全衛生基本理念 自動車とは、エンジンとは		12		
5	2 3	組立方式 ーフォード生産方式 ーTPS 製造方式・自動車製造概要・製造工程概要		6		
6	4 5～6 7 13～14	生産方式と設備 規模の生産性 大量生産方式の変革 車両組立概要・種類とその特徴		10	前期中間 6/10～12	
7	8～12 - 15～18 19～23 - -	各種工具 締付(トルク・軸力の関係) 組立工程(乗用車) ー組立工法と設備 組立ライン説明 エルゴノミクス		12		
8	24～26 27～29	生産管理と部品供給システム 品質保証及び機能保証		5	前期期末 8/24～26	テスト返却8/28
9	30 31～33	トラック組立工程 ーライン構成とレイアウト ー組立工法と設備 実習(28日月曜日より)		11		※機能別実習 (9/28～11/20)
10		実習		0		※機能別実習
11	34～35 36～39 -	実習(～20日金曜迄) 架装 組立工程(バス) ーバスの分類		3	後期中間 なし	※機能別実習20日迄 後期時間割開始 11月23日より
12	-	組立関係用語		11		
1	- - - -	車両型式 ー車両型式 ーエンジン型式 ー試作車型式 架装の基礎知識		11		1月6日時短 45分事業の為 2時限→1.8時限 とカウント
2		テストのみ		2	後期期末 2/1～3	テスト返却2/5 テスト:1時限 返却:0.5時限
3		実習		ー		

令和8年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日野工業高等学園						
学 科	機械科		コース	自動車製造科		学年・年次	2年
科目名	整備法	単位数		教科書	基礎自動車整備作業	出版社	日本自動車整備振興会 連 合 会
月	指 導 内 容				指導時数	試 験 h	備 考
	ページ	項 目・内 容			80		
4	ジーゼルエンジン	総論 エンジン本体			12		
5		潤滑装置 冷却装置 燃料装置			8		
6		燃料装置 吸排気装置			9	前期中間試験 9、10	
7		電気装置 燃料及び潤滑剤			12		
8		エンジンの点検整備 総論 動力伝達装置			3	前期期末試験 25、26、27	
9	シャシ	燃料装置 電気装置			12		
10					0		機能別実習
11		総論 クラッチ			3		機能別実習
12		プロペラシャフト ファイナルギヤ&デファレンシャル トランスミッション			7		
1		アクスル及びサスペンション リヤアクスル フロントアクスル			12		
2		独立懸架式サスペンション ブレーキ装置 ステアリング タイヤ・ホイール			2	後期期末 2、3、4	仮配属実習 特別時間割
3							仮配属実習 特別時間割

《留意事項》

2026年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日野工業高等学園								
学 科	機械科		コース	自動車製造科		学年・年次	2 年		
科目名	自動車工学	単位数		教科書	自動車工学1・2、 自動車材料	出版社	実教出版		
月	指 導 内 容					指導時数	試 験	備 考	
	ページ	項 目・内 容				89 h			
4	自工1	第1章 人と自動車 1. 自動車の発達 2. 自動車のあらまし 3. 自動車産業 4. 自動車と社会 5. 自動車と安全 6. 自動車と環境 第2章 自動車の原理 1. 自動車の力学				原動機 各装置 発達史 種類 構造 製造 関連産業 整備 社会の発展 輸送 環境保全	9		
	～46 ～58								
5	59～ ～72					力とその働き 運動の表し方 力と運動 運動とエネルギー 熱とエネルギー	6		
6	72～	2. 動力の発生 3. 動力の伝達 4. 自動車の操作のしくみ				材料の強さ(材料力学の基礎) 熱エネルギーの発生と変換 エンジンの働き 動力伝達のしくみ クラッチ 変速装置 プロペラシャフト 終減速装置 方向変換のしくみ 振動の吸収	13	前期中間 6/10～12	
	～118								
7	119～ ～126	5. 自動車の制動				圧力とその利用 摩擦	9		教科書シリーズNo.10
	材料 1～ ～58	自動車材料				金属材料の性質 鉄鋼材料 非鉄金属材料			
8	59～ ～92					焼結合金 非金属材料 ・ 複合材料	4.5	前期期末 8/24～26	答案返却 0.5H含む
9	自工1 127～	第3章 自動車用エンジン 1. ガソリンエンジン 2. ディーゼルエンジン				2サイクルエンジン、4サイクルエンジン 1)ガソリンエンジンの構成 2)エンジン本体 総排気量、圧縮比、隙間容積の計算 3)燃料装置 4)吸気装置 5)点火装置 6)潤滑・冷却・排気装置 1)ディーゼルエンジンとガソリンエンジンの比較 2)ディーゼルエンジンにおける燃焼	9		機能別実習 9/28～11/20
	～183								
10									機能別実習 9/28～11/20
11	184～ ～203	3)エンジン本体 4)予熱装置 5)燃料噴射装置 6)ディーゼルエンジンと環境保全(含排出ガス規制概要)					5		機能別実習 9/22～11/14
12	204～ ～216	3. その他の原動機 4. エンジンの性能 (仕事・損失・熱効率・正味仕事・・・)					15		
	自工2 6～	第4章 動力伝達装置 1. クラッチ 2. トランスミッション				働き、操作機構・作動、クラッチ本体 種類と働き、M/Iのしくみと働き ギヤ概要、ギヤ比の基礎 T/Mの操作機構 A/T			
1	～28						17		補助資料
	29～	3. その他の動力伝達装置 1) プロペラシャフト 2) 終減速装置 3) 駆動方式等 第5章 走行装置・懸架装置とかじ取り装置 1. 走行装置(車軸の構造、車輪の整列等) 2. 懸架装置(懸架装置の種類・構造) 3. かじ取り装置(かじ取り装置の構造) ＜補足＞ 燃料・潤滑油							
2		●後期期末試験の実施 ●後期期末試験の答案返却(解答・解説含む)					1.5		後期期末 試験 答案返却 0.5H含む
3							0		

《留意事項》

①指導時数には、試験(年3回・計3時間)、答案返却日の対応(年2回・計1時間)を含みます。

②補助資料を活用します。

2026年度(令和8年) 学習指導計画(連携科目等)

所 属	日野工業高等学園								
学 科	機械科		コース	自動車製造科		学年・年次	2年(57期生)		
科目名	自動車の電気	単位数		教科書	教科書シリーズNo.1	出版社	全国自動車大学校 整備専門学校協会		
月	指 導 内 容					指導時数	試 験	備 考	
	ページ	項 目・内 容				21 h			
4	1～14	第1章 電気の基礎					4		
	15～21	第2章 磁気の基礎							
	23～36	第3章 半導体の基礎							
5	37～40	第4章 通信システム					2		
	41～44	第5章 計測							
	45～55	第6章 モーターと発電機							
6	57～70	第7章 バッテリー					5	前期中間 6月10日 ～ 6月12日	指導時数内 テスト 1h
	71～79	第8章 始動装置							
7	81～101	第9章 点火装置					4		
	103～114	第10章 充電装置							
8	115～1128	第11章 計器					3	前期期末 8月24日 ～ 8月26日	指導時数内 テスト 1h 一斉返却1h
9	129～149	第12章 ボデー電装品					3		
	151～168	第13章 エア・コンディショナ							
10									
11									
12									
1									
2									
3									

《留意事項》

指導時数内訳:①講義17h ②テスト2h ③一斉返却1h

2026年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日野工業高等学園						
学 科	機械科、板金科		コース	機械加工科、塑性加工科		学年・年次	2
科目名	材料	単位数	1	教科書	機械材料		出版社 一般社団法人 雇用問題研究会
月	指 導 内 容				指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容			22h		
4	8～11 25～26 11～14	材料概論 金属の性質 金属の成形方法			4		
5	15～17 17～33	材料試験その1 材料試験その2			3		
6	46～51 51～54 55～56	テスト前演習 鉄鋼材料(炭素鋼) 鉄鋼材料(熱処理) 炭素鋼の表面処理			4	前期中間 6/10～12	
7	47～58 63～70 64～76	鉄鋼材料の分類 その1 鉄鋼材料の分類 その2 鉄鋼材料(鋼板、鋳鉄)			4		
8		テスト前演習 答案返却			3	前期期末 8/24 ～26	
9	80～92 80～87 87～91	非鉄金属材料の分類 非鉄金属(アルミニウム) 非鉄金属(銅、チタン、その他)			4		
10							
11							
12							
1							
2							
3							

《留意事項》

- ・授業時はプロジェクターを使用させてください。
- ・毎回A4プリントを配布しますので、1人1冊ファイルをご準備いただけますでしょうか。

2026年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日野工業高等学園							
学 科	機械科		コース	塑性加工科		学年・年次	2学年	
科目名	塑性加工概論 (板金工作法)	単位数	前期＝3 後期＝2	教科書	四訂 板金工作法及びプレス加工法	出版社	一般財団法人 職業訓練教材研究会	
月	指 導 内 容					指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容				70h		
4	1 11	4月1日 -				9		始業式*入学式* 公開授業 GW:4/29～5/5
		4月8日 P.1～4 第1章 板金加工の概要と特徴 3						
		4月15日 P.5～7 第2章 板金材料／第1節 鉄鋼材料 1.1熱間、1.2冷間E 3						
		4月22日 P.8～11 第1節 鉄鋼材料 1.3表面処理鋼板、1.4ステンレス鋼板 3						
		4月29日 -						
5	11 16	5月6日 -				6		クラブ合宿 5/12～15
		5月13日 -						
		5月20日 P.11～14 第2節 非鉄金属材料 2.1アルミ板 3						
		5月27日 P.14～16 第2節 非鉄金属材料 2.2銅板、2.3チタン 3						
6	17 36	6月3日 P.17～21 第3章 板金加工の種類および加工法／第1節 板取りE 3				13	前期中間 6/10～12	
		6月10日～12日 前期中間試験 1						
		6月17日 P.22～26 答案返却、第2節 切 断 2.1切断用手工具と切断 3						
		6月24日 P.26～36 第2節 切 断 2.2せん断用機械と切断、2.3要点 3						
7	36 59	7月1日 -				9		年休取得日① キャンプ実習 7/8～10
		7月8日 -						
		7月15日 P.36～44 第3節 曲げ加工 3.1分類、3.2手工具(1)～(5) 3						
		7月22日 P.45～53 第3節 曲げ加工 3.3機械曲げ 3						
		7月29日 P.54～59 第3節 曲げ加工 3.4曲げ加工法と精度(1)～(7)b 3						
8	59 62	8月5日 -				5	前期期末 8/24～26	夏休:8/2～16
		8月12日 -						
		8月19日 P.59～62 第3節 曲げ加工 3.4曲げ加工法と精度(7)c～(8) 3						
		8月24日～26日 前期期末試験 1						
9	62 86	8月28日 答案返却日 1				12		機能別実習 9/28(月)～
		9月2日 P.62～68 第4節 打出し、絞り 4.1打出し、4.2絞り、4.3へら絞り 3						
		9月9日 P.68～73 第5節 ひずみ取り 5.1手作業、5.2機械によるひずみE 3						
		9月16日 P.73～78 第6節 仕上げ 3						
		9月23日 P.79～86 第7節 CAD／CAMおよびFMS 7.1CAD/CAM、7.2FMS 3						
10		9月30日						
		10月7日						
		10月14日						
		10月21日 工場実習						
11	87 92	10月28日				2		機能別実習 ～11/20(金) ※11月23日(月) から単位2
		11月4日						
		11月11日						
		11月18日						
12	93 104	11月25日 P.87～92 第8節 測定法 8.1二次元測定、8.2三次元測定、8.3投 2				6		修旅報告会(AM) 冬休:12/25～1/5
		12月2日 P.93～96 第4章 接合 第1節 はぜ組み、第2節 リベット締め 2						
		12月9日 P.96～99 第2節 リベット締め(5)(6)、2.2リベット作業(1)～(3) 2						
		12月16日 P.99～104 第3節 ろう付け 3.1はんだ付、3.2硬ろう付 2						
		12月23日 -						
1	105 106	12月30日 -				6		年休取得日⑤
		1月6日 P.105～106 第4節 接着剤 4.1エポキシ樹脂、4.2シアノアクリレート、試験E 2						
		1月13日 P.62～86 期末試験対策① 2						
		1月20日 P.87～106 期末試験対策② 2						
2		1月27日 -				2	後期期末 2/1～3	特別時間割 特別時間割 仮配属実習
		2月1日～3日 後期期末試験 1						
		2月5日 答案返却日 1						
		2月10日 -						
		2月17日 - 特別時間割、仮配属実習						
3		2月24日 -						2/22(月) ～3/19(金) 修了式*
		3月3日 -						
		3月10日 -						
		3月17日 - 特別時間割、仮配属実習						
		3月24日 -						

《留意事項》

令和8年度 学習指導計画(連携科目等)

所 属	日野工業高等学園						
学 科	機械科		コース	塑性加工科		学年・年次	2学年
科目名	溶接法	単位数	1	教科書	新版 JIS 手溶接	出版社	産報出版
月	指 導 内 容				指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容			31h		
4	1～34	第1部 JIS Z 3801 受験講座 1 アーク溶接の一般知識			3		
5	35～59	2 溶接機の機構と操作			2		
6	59～86	2 溶接機の機構と操作 3 鉄鋼材料と溶接材料			6	前期中間 10～12	
7	87～110	4 溶接施工			4		
8	111～126	5 タイフ溶接と組合せ溶接			3	前期期末 24～26	
9	127～151	6 溶接部の試験と検査 7 溶接作業での災害防止			3		
10		機能別実習			0		
11	154～189	第2部 JIS Z 3801 演習問題 & 第3部 JIS Z 3801 演習問題模範解答			1		
12	216～228	第4部 JIS Z 3801／WES 8201 受験カイト 手溶接技能者評価試験の受験カイト 1 資格の種類 2 評価試験の受験資格 ～ 実技試験の詳細 3 評価試験の科目 4 実技試験の詳細			4		
1	229～231	5 評価試験の溶接上の注意 6 評価試験の判定法			3		
2	232～237	7 評価試験の合否判定基準 8 適格性証明書			2	後期期末 1～3	
3		仮配属実習 特別時間割			0		

2026年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日野工業高等学園					
学 科	機械科	コース	塑性加工科		学年・年次	2学年
科目名	製図、CAD、展開図	単位数	66	教科書	製図一般と板金展開図法 板金板取り展開図集 基礎製図検定問題集	出版社 社団法人 雇用問題研究会 公益社団法人 全国工業高等学校長協会
月	指 導 内 容			指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容		72h		
4		◎インテリCAD入門 ・CADとは ・インテリCAD概要 ・PC基本操作 ・基本的な図面作成(CAD基礎操作)		9h		
5		◎【課題①】 表題欄付図面枠の作成 ・図面の大枠を作成 ・表題欄の枠を作成 ・図面の印刷操作 ・課題①の提出		9h	課題①	
6		◎投影法の基礎知識' ◎【課題②】Vプーリーの図面作成 ・概要、作成手順の説明 ・形状作成 ・図面枠の流用、基準線の作成		12h		
7		◎【課題②】Vプーリーの図面作成 ・概要、作成手順の説明 ・形状作成 ・図面枠の流用、基準線の作成 ・課題②の提出		9h	課題②	
8		◎平面画法 ◎投影画法		3h	基礎製図 検定問題 集の中よ り出題	
9		平行線法の作図 ・斜めに切断した円筒 ・T字管		9h	3課題	
10		機能別工場実習		0h		
11		機能別工場実習		3h		
12		放射線法の作図 ・直円すい ・2片漸縮エルボ		9h	3課題	
1		三角形法の作図 ・台形台 ・底部が正方形、頂部が円形 ・2片漸縮エルボ		9h	3課題	
2		特別時間割 仮配属実習		0h		
3		仮配属実習		0h		

《留意事項》

2026年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日野工業高等学園						
学 科	電気科		コース	製造設備科		学年・年次	2年
科目名	電気製図	単位数		教科書	電気製図	出版社	実教出版
月	指 導 内 容				指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容			31		
4	9～32	第1章 製図の基本 1. 製図と規格 2. 製図用器具・材料 3. 線と文字 4. 平面図形 5. 投影図			4		
5	32、34 35～37	第1章 製図の基本 第2章 製作図 1. 線の用法			3		
6	38～63	第2章 製作図 2. 図形の表し方 3. 尺度と寸法記入 4. サイズ公差とはめあい 5. 表面性状と幾何公差			4	前期中間 6/10～12 いずれか	
7	71～95	第3章 機械要素 1. ねじ 2. ボルト・ナット・小ねじ・止めねじ 3. 軸 4. 歯車 5. 一般用Vプーリ 6. 溶接 7. スケッチ			4		
8	97～ 106	第4章 電気用図記号 1. 図記号 2. 基礎受動部品 3. 半導体素子 4. 文字・記号・数値の記入			3	前期期末 8/24～26 いずれか	
9	107～ 126	第5章 電気器具・電気機器			4		
10					0		
11	127～ 140	第6章 電気設備 1. 屋内配線			1		
12	127～ 140	第6章 電気設備 1. 屋内配線			2		
1	148～ 150	第6章 電気設備 3. シーケンス制御施設			4		
2					2	後期期末 2/1～3 いずれか	
3							

《留意事項》

2026年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日野工業高等学園						
学 科	電気科		コ ー ス	製造設備科		学年・年次	2
科目名	電気関係法規	単位数		教科書	電気関係法規	出版社	一般社団法人 雇用問題研究会
月	指 導 内 容				指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容			29 h		
4	1 4 ～ 2 2 ～	・ 電気法規の必要性 ・ 電気事業法			1 2		
5	4 4 ～	・ 電気工事士法			3		
6	8 2 ～	・ 電気用品安全法			5	前期中間 6/10～12	
7	1 0 4 ～	・ 電気設備に関する技術基準			3		
8	1 1 6 ～	・ 電気設備に関する技術基準			3	前期期末 8/24～26	
9	1 2 6 ～	・ 電気設備に関する技術基準			1		
	1 8 8 ～	・ 建築基準法			1		
	2 0 2 ～	・ 消防法			1		
10							
11	2 1 6 ～	・ 労働安全衛生			1		
12	2 1 6 ～	・ 労働安全衛生			3		
1		・ 第 2 電気工事士 試験対策			3		
2		・ 復習			2	後期期末 2/1～3	
3							

《留意事項》

2026年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日野工業高等学園						
学 科	電気科		コ ー ス	製造設備科		学年・年次	2 年
科目名	電力技術	単位数	3	教科書	電力技術	出版社	実教出版
月	指 導 内 容				指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容			80h		
4	1～82	第 1 章 発電			10		
5	83～148	第 1 章 発電 第 2 章 送電			7		
6	149～219	第 3 章 配電 第 4 章 屋内配線			11	前期中間 6/10～12	
7	220～250	第 4 章 屋内配線 第 5 章 電気に関する法規			10		
8		前期期末試験対応			5	前期期末 8/24～26	
9	251～316	第 6 章 照明 第 7 章 電気加熱			12		
10					0		
11	317～379	第 8 章 電力の制御			3		
12	380～410	第 9 章 電気化学 第 1 0 章 電気鉄道			10		
1	411～451	第 1 0 章 電気鉄道 第 1 1 章 さまざまな電力応用			10		
2		後期期末試験対応			2	後期期末 2/2～4	
3							

《留意事項》

2026年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日野工業高等学園						
学 科	電気科		コ ー ス	製造設備科		学年・年次	2 年
科目名	電子技術	単位数	2	教科書	電子技術	出版社	実教出版
月	指 導 内 容				指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容			73h		
4	4～6	電子技術を学ぶにあたって			1		
	7～26	第 1 章 半導体素子			8		
5	27～34	第 1 章 半導体素子			6		
6	35～49	第 2 章 アナログ回路			3	前期中間 6/10～12	
	50～90	第 2 章 アナログ回路			9		
7	91～120	第 3 章 デジタル回路			6		
	121～135	第 4 章 通信システムの基礎			3		
8	140～155	第 4 章 通信システムの基礎			3	前期期末 8/24～26	
9	159～200	第 4 章 通信システムの基礎			6		
	201～215	第 5 章 音響・映像機器の基礎			6		
10							
11	221～215	第 5 章 音響・映像機器の基礎			3		
12	220～235	第 5 章 音響・映像機器の基礎			10		
1	239～260	第 6 章 電子計測の基礎			9		
2						後期期末 2/1～3	
3							

《留意事項》

2026年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日野工業高等学園						
学 科	電気科		コース	製造設備科		学年・年次	2学年
科目名	電気機器	単位数	2	教科書	電気機器	出版社	オーム社
月	指 導 内 容				指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容			86h		
4	2～46	1章 直流機	1-1 直流機の原理と構造 1-2 直流発電機の誘導起電力 1-3 電機子反作用とその防止 1-4 直流発電機の種類 1-5 直流発電機の特性	1-6 直流発電機の回転速度、トルク、出力 1-7 直流電動機の特性 1-8 直流電動機の始動と速度制御 1-9 直流機の効率 1章のまとめ、1章の総合問題	12		7 14 21 28
5	48～74	2章 変圧器-1	2-1 変圧器の原理とベクトル図 2-2 変圧器の種類と構造 2-3 変圧器の絶縁油と冷却方式 2-4 変圧器の損失とその測定法および効率 2-5 電圧変動率と電圧調整		6		19 26
6	75～95 98～119	2章 変圧器-2 3章 誘導機-1	2-6 変圧器の結線 2-7 単巻変圧器 2-8 計器用変成器 2章のまとめ、2章の総合問題	3-1 誘導電動機の原理及び構造と種類 3-2 誘導電動機の同期速度と滑り 3-3 誘導電動機の等価回路 3-4 誘導電動機の運転特性 3-5 円線図	13	前期中間試験 6/10～6/12	2 9 16 23
7	120～137 140～147	3章 誘導機-2 4章 同期機-1	3-6 誘導電動機の始動方法 3-7 誘導電動機の手速度制御 3-8 特殊かご形誘導電動機 3-9 単相誘導電動機 3章のまとめ、3章の総合問題	4-1 同期発電機の構造と種類 4-2 同期発電機の誘導起電力 4-3 電機子反作用と同期インダクタンス	12		7 14 21 28
8	148～152	4章 同期機-2	4-4 同期発電機の特性 4-5 電圧変動率と自己励磁		5	前期期末試験 8/25～8/27 答案返却 8/29	18
9	153～169 172～182	4章 同期機-2 5章 パワエレ-1	4-6 同期発電機の並行運転 4-7 同期電動機の特性 4-8 同期電動機の始動法 4-9 同機器の損失と効率 4-10 その他の同期機の例	4章のまとめ、4章の総合問題 5-1 電力変換技術の概要 5-2 電力変換素子	12		1 8 15
10							
11	183～198	5章 パワエレ-2	5-3 順変換装置 5-4 直流変換装置		3		24
12	199～216 218～235	5章 パワエレ-3 6章 電気材料	5-5 逆変換装置 5-6 交流変換装置 5-7 パワーエレクトロニクスの応用例 5章のまとめ、5章の総合問題	6-1 絶縁材料 6-2 磁性材料 6-3 導電材料 6-4 半導体材料 6章のまとめ、6章の総合問題	12		1 8 15 22
1	238～263	6章 電気材料	7-1 小型直流モーター 7-2 小型交流モーター 7-3 ブラシレスモーター 7-4 ステッピングモーター 7-5 リニアモーター	7章のまとめ、7章の総合問題	9		12 19 26
2					2	後期期末試験 2/1～2/3 答案返却 2/5	
3							

《留意事項》

令和8年度 学習指導計画(連携科目等)

連携校名	日野工業高等学園						
学 科	機械科		コース	自動車製造科		学年・年次	2年
科目名	機器の構造及び取扱い法	単位数		教科書	基礎自動車整備作業	出版社	日本自動車整備振興会連合会
月	指 導 内 容				指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目 ・ 内 容			17 h		
4	7 ～ 18	第1章 整備の基礎知識 安全教育 第2章 基礎整備作業(使用機器・工具) Ⅰ.基本作業 スパナ、モンキーレンチ、めがねレンチ、ソケットレンチ、他 トルクレンチと使い方、ドライバ、ハンマー、他			3		
5	19 ～ 25	プライヤー、プーラ類、スライドハンマ、たがね プレス、バイス、やすり、弓のこ、リーマ、ベンチグラインダー、 ドリル、電気ドリル、卓上ボール盤、 タップ、ダイス、ねじの基礎			3		
6	37 51	Ⅱ.測定作業 スケール、ノギス、マイクロメータ タップ、ダイス、ねじの基礎 ダイヤルゲージ、シリンダゲージ、シックネスゲージ、 プラスチックゲージ、定盤			4	前期中間 9, 10	
7	62	Ⅴブロック、スコヤ、ストレートエッジ Ⅲ.エンジン点検作業 コンプレッションゲージ、バキュームゲージ、タイミングライト、 タコテスタ、電圧・電流計、サーキットテスタ、バッテリークーラント テスタ、バッテリーテスタ、CO・HCテスタ、PM測定器 燃圧計、ハンドバキュームポンプ、油圧計、オシロスコープ 等			3		
8		Ⅳ.シャシ点検作業 トーインゲージ、キャンバ・キャスタ・キングピンゲージ タイヤゲージ、デプスゲージ Ⅴ.充電作業 充電器			1	前期期末 25.26.27	
9		Ⅵ.洗浄作業 部品洗浄槽、エアガン、洗車機・洗浄機 等 Ⅶ.給油作業 グリースガン、ルブリケータ			3		
10		(工場実習)			0		
11					0		
12					0		
1					0		
2					0		
3					0		

《留意事項》

①補助資料を活用します

2026年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日野工業高等学園						
学 科	機械科・電気科		コース	塑性加工科・製造設備科		学年・年次	3年
科目名	機械工学概論	単位数	2	教科書	機械工学概論	出版社	社団法人 雇用問題研究会

月	指 導 内 容		指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容	50 h		
4	7～27	第 1 章 機械要素 ねじ、締結部品	6		
5	28～45	第 1 章 機械要素 軸と軸受け	4		GW クラブ合宿
6			0		仮配属実習②
7	46～52	第 1 章 機械要素 緩衝部品	6		
8	53～58	第 1 章 機械要素 歯車	4	前期期末 8/25,8/26	夏季休暇
9	59～69	第 1 章 機械要素 巻き掛け伝動部品	10		
10	70～76	第 1 章 機械要素 管と弁	4		修学旅行
11	77～98	第 2 章 機構と運動 機械と機構、歯車伝動機構、油空圧機構	8		
12	99～111	第 2 章 機構と運動 リンク装置、カム機構	8	後期期末 12/17,12/18	
1			0		特別時間割 配属職場実習
2			0		配属職場実習 特別時間割
3			0		特別時間割

《留意事項》

令和8年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日野工業高等学園							
学 科	機械科・電気科		コース	機械加工科・塑性加工科・自動車製造科・製造設備科		学年・年次	3年	
科目名	生産工学概論(工業管理技術)	単位数	1	教科書	生産工学概論	出版社	一般社団法人 雇用問題研究所	
月	指 導 内 容					指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容				50		
4	8~ 25	第1章 生産と工場				8		TPS
5	111~ 113	第5章 設備管理と作業保全				2		TPS
	142~ 144	第8章 職場規律						
6						0		
7	38~ 43	第2章 生産計画と生産統制				6		TPS
8	51~ 58	第3章 工程改善と作業改善				4	前期 期末 26.27	
9	59~ 70	第3章 工程改善と作業改善				8		TPS
10	76~ 95	第4章 品質保証と品質管理				6		TPS
11	103~ 110	第5章 設備管理と作業保全				8		TPS
	120~ 131	第6章 製造原価と原価計算						
12	134~ 140	第7章 運搬管理 TPSまとめ				8	後期 期末 18.19	TPS
1		技能照査 応用実習				0		
2		応用実習				0		
3		配属				0		

《留意事項》

2026年度 学習指導計画(連携科目等)

連携校名	日野工業高等学園						
学 科	機械科		コース	塑性加工科		学年・年次	3 学年
科目名	溶接	単位数	1	教科書	溶接法	出版社	一般社団法人 職業訓練教材研究会
月	指 導 内 容				指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目 ・ 内 容			38		
4	1～5 7～22 25～32	第1章 溶接及び切断概要 第2章 被覆アーク溶接 第3章 ティグ溶接			6		
5	35～45	第4章 マグ溶接			2		
6					0		
7	47～48 51～62	第5章 ミグ溶接 第6章 ガス溶接			6		
8	67～72 75～84	第7章 その他のアーク溶接 第8章 圧接			4	前期期末 25～26	
9	75～84 85～103	第8章 圧接 第9章 その他の溶接			9		
10	109～123	第10章 熱切断			2		
11	125～187 193～210	第11章 各種金属の溶接 第12章 溶接施工			4		
12	213～220 223～243	第13章 溶接部の試験・検査 第14章 溶接作業の安全衛生			5	後期期末 17～18	
1		技能照査			0		
2		仮配属			0		
3		卒業			0		

2026年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日野工業高等学園						
学 科	機械科		コース	機械加工科		学年・年次	3年
科目名	金型工作法	単位数		教科書	金型工作法	出版社	社団法人 雇用問題研究会
月	指 導 内 容				指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容			44 h		
4	10～18 20～38	年間学習計画、概要説明 第1章 1節 金型とは/ 2節 金型製作法の概要 第2章 1節 金型作り/ 2節 金型設計におけるCAD/CAM			6		
5	39～52	第2章 3節 金型の製作			2		
6							
7	56～77	第3章 1節 プレス加工とは/ 2節 プレス加工の要点			6		
8		前期復習、前期期末試験対策			2	前期期末 8/25～26	
9	78～89 90～112 116～ 130	第3章 3節 プレス機械/ 4節 プレス加工材料 第3章 5節 金型 第4章 1節 プラスチック成形とは/ 2節 プラスチック成形用機械			10		
10	131～ 181	第4章 3節 プラスチック成形用材料/ 4節 射出成形用金型/ 5節 圧縮成形用金型/ 6節 トランスファ成形用金型			4		
11	184～ 209	第5章 1節 ダイカストとは/ 2節 ダイカストマシンの種類と特殊ダイカスト法/ 3節 ダイカスト材料の種類、用途及び特性/ 4節 ダイカスト金型			8		
12	212～ 227	第6章 1節 ガラス用金型/ 2節 ゴム用金型/ 3節 粉末冶金用金型/ 4節 鍛造用金型/ 5節 押し出し加工用金型/ 6節 引き抜き加工用金型 後期復習、後期期末試験対策			6	後期期末 12/17～ 18	
1							
2							
3							

《留意事項》

2026年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日野工業高等学園						
学 科	機械科		コース	塑性加工科		学年・年次	3年
科目名	プレス加工法	単位数		教科書	板金工作法及びプレス加工法	出版社	一般財団法人 職業訓練教材研究所
月	指 導 内 容				指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容			61h		
4	P107～ P111～	第5章 プレス加工の概要と特徴 第6章 プレス機械 機械式プレス 液圧式プレス			12		
5	P121～	第7章 プレス加工 せん断加工 (1)基本的なせん断加工 (2)切断面とクリアランス (3)せん断に必要な力の計算			9		
6		仮配属実習のため授業無し			0		
7	P132～	第7章 プレス加工 曲げ加工 (1)曲げ加工の概要 (2)曲げ加工に必要な力の計算			9		
8	P107～ P135	前期期末試験に向けた復習			3	前期期末 8/24-26	
9	P135～	第7章 プレス加工 絞り加工 (1)絞り加工の概要 (2)絞り加工に必要な力の計算			12		
10	P147～ P155～	第8章 金型の取付け 第9章 プレス加工の自動化 送給装置			6		
11	P160～ P169～	第9章 順送り加工及びトランスファ加工 第10章 プレス機械の安全・検査			8		
12	P135～ P175	後期期末試験に向けた復習			2	後期期末 12/17-18	
1		配属職場実習のため授業無し			0		
2		配属職場実習のため授業無し			0		
3		正式配属のため授業無し			0		

《留意事項》

令和8年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日野工業高等学園						
学 科	機械科		コース	自動車製造科		学年・年次	3年
科目名	自動車整備法	単位数		教科書	3級ジーゼル、シャシ、ガソリン	出版社	日本自動車整備振興会連合会
月	指 導 内 容				指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容			55h		
4	7～ 15～ 47～ 65～	ジーゼル・エンジン 総論 'エンジン本体 '潤滑、冷却装置 '燃料装置			10		
5	99～ 105～ 141～	吸排気装置 電気装置 燃料及び潤滑剤、 (仮配属実習2)			2		12～15 クラブ合宿 29体育祭
6		(仮配属実習2)			0		6/1～ 7/9 改配属実習2
7	147～ 34～	(仮配属実習2) エンジンの点検・整備 オートマティック・トランスミッション			10		
8	123～	ホイール・アライメント			4	25～26 前期期末	
9		ジーゼル、シャシ、ガソリン復習			4		
10		ジーゼル、シャシ、ガソリン復習			6		21～28 修学旅行
11		ジーゼル、シャシ、ガソリン復習			12		
12		ジーゼル、シャシ、ガソリン復習			7	17～18 後期期末	11 マラソン大会
1							
2							
3							

《留意事項》

令和8年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日野工業高等学園						
学 科	機械科		コ ー ス	自動車製造科		学年・年次	3
科目名	自動車法規	単位数		教科書	法令教材	出版社	日本自動車整備振興会連合会
月	指 導 内 容				指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目 ・ 内 容			2 7 h		
4		★整備士技能検定制度の説明 1. 自動車に対する法規制の概要			4 h		
5		2. 道路運送車両法……定義、目的等 ①総則(定義、目的等) ②自動車の登録 ③道路運送車両の保安基準 ④道路運送車両の点検及び整備			2 h		12～15 クラブ合宿 29体育祭
6		仮配属実習 2			0 h		6/1～ 7/9 改配属実習2
7		⑤道路運送車両の検査 ⑥自動車の整備事業 ★自動車の種別、自動車点検基準、車両検査 3. 道路運送車両の保安基準、自動車の点検基準 ①総則(定義、目的等)			3 h		
8		②自動車の保安基準 (自動車の大きさ、最低地上高、車両総重量、軸・輪荷重、安定性、) (最小回転半径、走行・操縦・制動・緩衝装置)			3 h	25～26 前期期末	
9		②自動車の保安基準(燃料・電気装置、非常口、窓ガラス、騒音防止装置)			4 h		
10		②自動車の保安基準 (排出ガス、前照灯、前部・後部霧灯、車幅灯、 側方灯、尾灯、後部反射器)			3 h		21～28 修学旅行
11		②自動車の保安基準(制動灯、補助制動灯、後退灯、方向指示器、ハザード、 警音器、 非常信号用具、盗難装置、窓拭き器等、速度計、消火器、 運行記録計、速度表示装置、乗車定員)			4 h		
12		4. 関係法令抜粋 ★総復習(整備士取得に向けて)			4 h	17～18 後期期末	11 マラソン大会
1							
2							
3							

《留意事項》

令和8年度 学習指導計画(連携科目等)

所 属	日野工業高等学園						
学 科	機械科		コース	自動車製造科		学年・年次	3年
科目名	自動車の構造及び性能（自動車工学）	単位数		教科書	自動車工学1・2	出版社	実教出版株式会社
月	指 導 内 容				指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容			85 h		
4	6 6 － 126	自動車工学1 第一章 人と自動車「復習」 1) 自動車の発達 2) 自動車のあらし 3) 自動車と環境 第二章 自動車の原理「復習」 1) 自動車の力学 2) 動力と伝達			14		
5	128 － 216	第三章 自動車のエンジン「復習」 1) ガソリンエンジン 2) ディーゼルエンジン 3) その他のエンジン			8		
6					0		
7	6 － 29	自動車工学2 第四章 動力伝達装置「復習」 1) クラッチ 2) トランスミッション 3) その他の動力伝達装置			12		
8	38 － 64	第五章 懸架装置・走行装置・ステアリング装置「復習」 1) 懸架装置 2) 走行装置 3) ステアリング装置 前期期末試験			5.5	前期期末 8/25,26	テスト:1h 返却:0.5 0.5
9	66 － 76 － 84	第六章 ブレーキ装置 1) ブレーキ装置の役割 2) ブレーキ装置の構造と作用 ・あらし・種類と構造・操作機構 第七章 シヤシ・ボデー 1) シヤシ 2) ボデー			18		
10	86 － 112	第八章 走行性能 1) 走行抵抗と駆動力 2) 直進走行性能 3) コーナリング性能 4) 乗り心地性能			7		
11	116 － 151	第九章 自動車の電気・電子技術 1) バッテリー 2) スタータ 3) 発電装置 4) 保安部品			12		
12	174 － 151	第十章 予防安全と衝突安全 1) 予防安全装置 2) さらに進んだ予防安全 3) 衝突安全装置 後期期末試験			8.5	後期期末 12/11～ 10	テスト返却12/
1	－ －						
2							
3							

《留意事項》

2026年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日野工業高等学園						
学 科	機械科		コース	機械加工科		学年・年次	3年
科目名	機械加工法	単位数		教科書	機械工作法	出版社	一般財団法人 雇用問題研究会
月	指 導 内 容				指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目・内 容			73h		
4	12～31 34～50 51～54	第1章 機械工作法の概要(第1節 総説) 第2章 切削加工法(第1節 切削理論／切削加工～切削工具) 第2章 切削加工法(第1節 切削理論／被削材～切削油材)			12		4/2 4/9 4/16 4/23
5	196～225 228～240	第3章 研削加工法(研削の基礎・研削盤作業) 第4章 研磨加工法(ラップ作業・ホーニング作業)			9		5/7 5/21 5/28
6		授業無し			0		
7	228～240 258～264 269～276 276～284	第4章 研磨加工法(ラップ作業・ホーニング作業) 第6章 仕上げ、組立て(けがき法) 第6章 仕上げ、組立て(仕上げ法 はつり・やすり) 第6章 仕上げ、組立て(金切り・タップ・ダイス)			9		7/16 7/23 7/30
8	290～301	第6章 仕上げ、組立て(リーマ・きさげ作業)			5	8/25,26 8/28返却	8/20
9	303～308 310～313	第6章 仕上げ、組立て(組立法) 第7章 鋳造法(鋳型と原型)			12		9/3 9/10 9/17 9/24
10	313～321 324～335	第7章 鋳造法(鋳型～金属の溶解と鋳込み) 第8章 塑性加工(鍛造)			9		10/1 10/8 10/15
11	336～343 366～377 378～379	第8章 塑性加工(板金) 第10章 溶接法、切断法(金属の接合方法) 第10章 溶接法、切断法(金属の切断方法)			12		11/5 11/12 11/19 11/26
12	380～384	第10章 溶接法、切断法(溶接部の試験と検査)			5	12/17,18 12/22返却	12/3
1		授業無し			0		
2		授業無し			0		
3		授業無し			0		

《留意事項》

2026年度 学習指導計画(連携科目)

所 属	日野工業高等学園						
学 科	機械科		コ ー ス	機械加工科・塑性加工科・自動車製造科		学年・年次	3年
科目名	材料力学	単位数	1	教科書	材料力学	出版社	財団法人 職業訓練教材研究会
月	指 導 内 容				指導時数	試 験	備 考
	ページ	項 目 ・ 内 容			50 h		
4	1～23	第1章 材料力学の基礎			8		
5	24～30	第2章 単純応力			4		
6					0		
7	31～64	第2章 単純応力			6		
8	65～82	第3章 はり			4	前期期末 8/25～26	
9	83～101	第3章 はり			8		
10	102～114	第3章 はり			4		
11	115～127 128～139	第3章 はり 第4章 軸			8		
12	140～150	第5章 柱			8	後期期末 12/17 ～18	
1							
2							
3							

《留意事項》
